

伊藤大使によるJICAチェア・プログラム第2回講義への出席

2022年4月19日、伊藤大使は、アディス・アベバ大学(AAU)とJICAエチオピア事務所が共催した[JICAチェア・プログラム](#)第2回講義「第2次世界大戦後の経済開発：日本からの経験と教訓」に出席しました。

伊藤大使は来賓挨拶において、日本の戦後経済発展に関し、マクロ経済的には戦後のベビーブームによる「人口ボーナス」が得られたこと、またミクロ経済的には、戦後の日本式経営の特徴等が第二次世界大戦後の奇跡的発展に寄与したことを紹介し、現在では岸田内閣総理大臣が「新しい資本主義」を掲げ「成長と分配の好循環」に向けた措置を取り進めていること、3月26日及び27日に行われたTICAD閣僚会合において林芳正・外務大臣が述べたように、日本は人間の安全保障の理念の下で「人」や「成長の質」に重点を置きながらAU「アジェンダ2063」や「持続可能な開発目標(SDGs)」の実現を後押ししていく決意である旨も言及しました。

その後、大野健一政策研究大学院大学(GRIPS)教授が登壇し、「第2次世界大戦後の経済開発：日本からの経験と教訓」について約1時間の講義を行いました。またゲタフン・タデセ・首席カイゼン・コンサルタントより、エチオピア及びアフリカにおけるカイゼン活動の妥当性につき紹介されました。

同プログラムには、多くのAAUの教員・学生などが参加し、日本の戦後の経済発展の経験や教訓をエチオピアに適用できるか、活発な意見交換が行われました。



伊藤大使による冒頭挨拶



大野 GRIPS 教授による講義



ゲタフン首席カイゼンコンサルタントによる発表



会場の様子



集合写真